

尼崎市長あて

## 尼崎市市民提案制度 実施結果報告書

尼崎市市民提案制度実施要綱に基づき、次のとおり報告します。

### 1 提案概要

団体名及び代表者氏名	一般社団法人 ポノポノプレイス 代表理事 吹野 加代
事業名	双星放課後カフェ
事業所管課	総合政策局 園田地域振興センター 園田地域課 教育委員会事務局 学校教育部 高校教育課
事業内容	(実施期間、実施場所の実績についても明記のこと) 尼崎双星高等学校内で、気軽に立ち寄れる「居場所」をカフェ形式で提供し、学校でもない家庭でもない、「第三の居場所」において、様々な大人との交流を通じて、生徒達の悩みを共有し解決などを図っていく。 令和4年度は、延べ22回実施し、参加者は延べ1,045名(令和5年2月17日現在)

### 2 事業評価

#### (1) 協働側面の評価

##### 実施手順

- ・下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする  
A(よくできた)、B(まあまあできた)、C(あまりできなかった)、D(まったくできなかった)
- ・結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画(準備)段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	A	A
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	B	B
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	A	A
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	A	A
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	A	A
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関われたか	A	A
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	A	A

## (2) 事業効果の評価

## 実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	「カフェを知っている」と答えた生徒の数
	測定方法	全生徒を対象にアンケート
	結果	173人（アンケート回答者173人中、100%）
2	評価指標	「参加して良かった」と答えた生徒の数
	測定方法	全生徒を対象にアンケート
	結果	96人（アンケート回答者のうち参加した生徒97人中、99%）

## 3 総合評価

## 協働側面の評価

## 1 事業計画（準備）段階について

- ・今年度実施する前に学校を含め、団体と所管課で実施目的や実施体制、課題や目標について話し合い、相手の立場や組織、ルール等を共有し理解し合いながら、「事業計画（準備）段階」の各項目を意識して取り組むことができた。
- ・年度当初に学校と団体・所管課で学校の行事予定を踏まえ開催可能日を共有できたことで、今年度は安定して開催することができた。

## 2 事業実施段階について

- ・団体と学校が直接開催日程を調整することで、学校活動の様子を聞く事ができ、生徒達とのコミュニケーションも取りやすくなった。
- ・学期毎に学校と団体・所管課で振り返りの場を設け、率直な意見交換を行い、生徒達のカフェでの様子や学校活動の様子を共有することができた。
- ・開催中に気になる事案があった場合も速やかに学校と共有し対処することができた。

## 事業効果の評価

- ・学校の協力のもと、初めて全生徒を対象にアンケートを実施する事ができた。（1月末頃）
- ・コロナ禍を踏まえて実施方法を学年別で月3回実施する事で、カフェの知名度も上がり、カフェに目的を持って来ている生徒も増え認知度も上がった。
- ・評価指標2について、参加した生徒のうち1人を除き「参加して良かった」と回答があり、理由として友達や地域の大人たちと交流できた事が多く、事業目的である「交流の場」を提供することができた。

## 総評

- ・学校の協力のもと、全生徒を対象にアンケートを実施し、生徒達の意見を聞いたことは今後の事業運営において、大変貴重な意見となった。
- ・アンケート結果で見た課題については、学校と団体・所管課と話し合い、よりよい手法で実施していきたい。
- ・当初緊張感を持ってカフェに入ってきた生徒が、少しずつスタッフとコミュニケーションが取れるようになり、手を振りながら入ってきてくれる生徒やスタッフに会いに来てくれる生徒も増え、学校生活では見る事ができない生徒達のリラックスした表情をカフェ内で見せるなど、生徒達の変化もみられた。

- ・ユース交流センターの職員（SSW）の協力も得られ、悩みを抱えている生徒をユース交流センターにつなぎ、ユースで開催するイベントに積極的に参加するなど地域に興味を持つ生徒の姿もみられ、生徒を孤立させず支援につなげることができた。
- ・今まで積み重ねてきた関係を活かし来年度以降も校内で居場所作りを実施し、生徒達の主体性を育めるような場も提供をしていきたい。

## 4 収支結果（協働事業のみ）

収入の部				
科目	積算金額（単位：円）			内容及び算出根拠
	予算額	決算額		
市補助金	300,000	300,000		
自主財源	281,000	38,911		
収入合計	581,000	338,911		
支出の部				
科目	積算金額（単位：円）			内容及び算出根拠
	予算額	決算額		
		計	うち市補助金	
需用費	401,000	246,911	240,000	消耗品 155,960円 消耗品（カフェ材料費 90,951円）
報償費	72,000	0	0	
人件費	108,000	92,000	60,000	@1,000円×92名（延べ）
支出合計	581,000	338,911	300,000	補助額に対する人件費割合： 20%（委託事業は記入不要）